

議案外質問(3月5日) さいとう愛子議員

同性パートナーシップ制度の導入を



政令市の3/4が導入予定

3月5日の本会議で、さいとう愛子議員は同性パートナーシップ制度の導入を求め質問しました。

政令市の導入状況

導入済み	未導入
札幌 熊本 福岡 北九州 大阪 横浜 千葉 堺	仙台 静岡 京都 神戸 名古屋
2020年度中に導入予定	
相模原 広島 浜松 川崎 新潟 さいたま 岡山	

同性パートナーを自治体が公的に認める「同性パートナーシップ制度」には法的拘束力はないものの、男女のパートナーなら当然可能な、公営住宅への入居、緊急時の病院での面会などが、同性のパートナーもできるようになります。2020年度には20政令市の3/4、15市で実施される見込みです。

差別や偏見は人権問題（総務局長）

さいとう議員は、市が実施したアンケートでは、当事者の要望で最も多いのは「法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと」であることを紹介。せめてパートナーシップ制は導入すべきと求めましたが、総務局長は「性的少数者に対する偏見や差別は人権問題」としつつ、「調査研究をすすめる」との答弁に留まりました。

当事者が求める意識啓発や支援上位3つ (2018年名古屋市調査より 13項目から5つを選択)

同性同士のパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと	57.9%
更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮	53.9%
気持ちや情報を共有できる居場所づくり	51.3%

小規模校統廃合 子ども・地域の声を聞け

クラス替えの出来ない学年が生じる、11学級以下の小学校・5学級以下の中学校を統廃合する「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」を進める市に対し、さいとう議員は学校の存続を望む地域の声を伝えました。

高坂小 廃止

地域と一体の教育実践

天白区では、高坂小が廃止されしまだ小に統合される計画です。高坂小は10年程前に、地域住民などの猛反対で相生小との統廃合案が頓挫した学校で、地域と協力したきめ細かい教育が特徴的です。さいとう議員は高坂小の水田で毎年、児童と地域の方が協力して米を収穫する事例を紹介。教育長も高坂小の取り組みは「意義あること」と認めました。

野跡小 廃止

参加者の少ない説明会

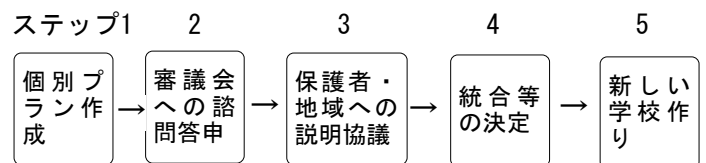
港区では、野跡小を廃止して稲永小に統合する計画ですが、説明会への参加者は併せても60人以下です。野跡学区は、9割を超える世帯が市営住宅に暮らしており、ひとり親世帯や障害者世帯、外国籍の方々も多く、経済的にたいへんな世帯も少なくありません。さいとう議員は「説明会に参加できない保護者もいる。きめ細かい教育がしやすい小規模校の良さを存分に発揮すべき」と求めました。

森孝中での統合

狭い運動場、通学路の不安

守山区では、本地丘・森孝東・森孝西の3小学校を廃止し、森孝中との小中併設校として再編する計画です。住民からは、「森孝中の運動場は今でも広くない。面積は不足しないか」「本地丘小からは坂の上り下りもあり、交通量の多い出来町通りを渡る。低学年の児童にはかなり負担が大きい」との声が上がっていますが、市教委は解決策を示していません。さいとう議員の「『個別プラン』に解決策を盛り込むか」との質問に、教育長は「統合決定後に対応する」と答えました。

名古屋市の統廃合計画の流れ (「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」より)



児童の声を聞け

さいとう議員は高坂小児童の「高坂小をなくさないでほしい」という声を紹介。子どもの主体的参加と意見の尊重を定める「なごや子ども条例」第7条をひいて「この児童の声を尊重するか」と問うと、教育長は答弁を避けました。

高坂小児童の声

「1クラスで、別になんにも困ってないんです。1年からずっといっしょだし、兄弟みたいに家のこともわかる。久方中に行った先輩が行き帰りに会ったら声をかけてくれる」